

考えてみよう。環境に着目した営農指針

コーディネーター：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門
資源利用研究領域 上級研究員 上田 達己



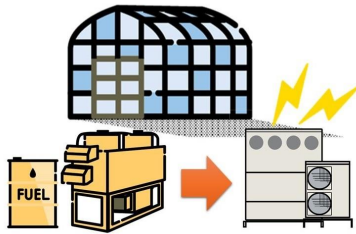
開催日等

令和7年(2025年) **ハイブリッド形式(会場またはオンラインを選択できます。)**

12月19日 [金] 9:00~16:30 **参加費無料**
定員15名(全日程に参加することとし、代理の方の参加は認めません。)

場 所：農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター（茨城県つくば市観音台2-1-9）
※オンラインはTeamsを使用します（受講者は各種ブラウザから指定のURLにアクセスして頂きます。）
対 象：都道府県庁などで営農支援に携わる若手・中堅職員（または産学官でそのような業務に関心のある方々）で、
環境に着目した営農指針の策定に関心のある方。

農研機構では、「脱炭素型農業実現のためのパイロット研究プロジェクト（脱炭素プロ）」において、施設園芸における地中熱ヒートポンプの利用、家畜ふん尿等からのバイオガス製造時に副産物として生じる消化液の土中散布、水田の中干し延長を通じた温室効果ガス（GHG）削減のための技術開発に取り組んでいます。



▲施設園芸の暖房を
重油焼きボイラーからヒートポンプへ転換

このような技術を農業の現場に普及していくため、技術の導入が農業経営にどのような影響を与えるかを把握すること、ひいては各都道府県の経営指標に反映していくことが不可欠です。その際、新技術導入が環境と調和のとれたものとなるよう、GHG削減効果を定量的に把握し、Jクレジットの活用も視野に入れた経営指標の検討を行うことは、技術普及の一助になると期待されます。

- 本ワークショップは、都道府県の営農支援に携わる職員を主な対象として、
- ①「脱炭素プロ」で開発した新技術の紹介、
 - ②WEBツールを用いた営農活動におけるGHG排出量等の算定方法の実習、
 - ③Jクレジットの活用を視野に入れた経営指標算定方法の習得、を目的とします。

講義と実習の概要

【12月19日(金)】9:00~16:30

- 【挨拶】趣旨説明（農研機構農村工学研究部門 遠藤 和子）
- 【講義】全体構成の説明 GHG排出量算定のためのWEBツールの紹介（農研機構農村工学研究部門 上田 達己）
- 【講義】新技術の紹介：施設園芸へのヒートポンプ導入（農研機構農村工学研究部門 石井 雅久）
- 【講義】新技術の導入事例の紹介：
高効率ヒートポンプ空調設備導入によるCO₂ 排出削減プロジェクト（JAからつ 元相談役 末長 達幸）
- 【講義】新技術の紹介・評価：水田の中干延長（農研機構農村工学研究部門 藤井 清佳）
- 【講義】新技術の紹介・評価：消化液の土中散布（農研機構農村工学研究部門 芦田 敏文）
- 【講義】新技術導入とそのGHG排出削減効果を考慮した経営指標の策定（農研機構農村工学研究部門 渡邊 真由美）
- 【実習】新技術導入によるGHG排出量の算定および経営指標の策定（講師一同）

詳細・お申込はこちら

<https://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>



筑波産学連携支援センターのホームページ（上記URLまたは左QRコード）より、お申し込みください。
※ご所属機関で参加希望者を取りまとめて申し込みされる場合は、ホームページより申込書と申込アンケートをダウンロード後、ご所属機関の窓口にご提出いただき、ご所属機関の窓口から koryu7129@maff.go.jp まで送信していただきますようお願いいたします。

申込締切日：令和7年11月12日（水）まで（※選考結果は、11月20日頃をメールにてお知らせいたします。）

※本ワークショップは先着順ではなく、コーディネーターによる選考となります。予めご理解の上、お申し込みください。
※ノートPCをご持参頂きます（実習で、Microsoft Excelを使用します。）

